# 部 報 第五百五十 號 次

卷 體育運動主事會議院訓示 敎 頭(明治天皇御製三首)… 科 書 0 挿 畫 …文部省圖書監修官 文 部 大 臣 平 生 尚 釟三郎: 保 = . . 四

文部省視學委員復命書抄

命

育… :·文部省視學委員東京女子高等師範學校教授

八

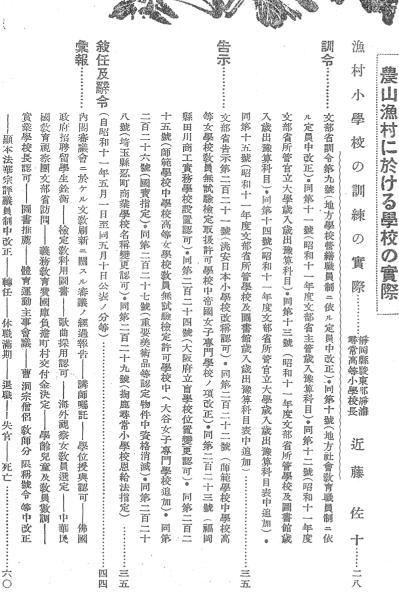
= 九

.....文部省視學委員松山高等學校教授

.....文部省視學委員廣島高等學校教授 西 兵

文部省直轄學校 特色

名 東 京商科 占 屋 美 大學附屬 高 工 業學 商業教員養成所 0 色… 色……名古屋高等工業學校長 泥 .....東京美術學校長 ·商業教員養成所主事 長事務取扱教授東京高等蠶絲學校 岩 和 淵 屋田 英 三……三六 ------



死亡

顯本法華宗評議員制中改正 - 轉任 休職滿期 退職 失官



文部省 圖書監修官 大

るから、 村の情景を描いた寫生文で、もと國語讀本に出てゐたものであ 地藏尊が淋しさうに立つてゐる繪である。本文が簡單なのであ のない繪である る。此度の挿畫は、 新讀本卷七の第五課に「からかさまつ」といふ文がある。山 その文意に因んで書く以上誰が書いても外に書きやう 山腹に大きな傘松が生えてゐて、 此の下に

早速その松を寫生し之に地藏尊を配して持つて來られたのが、 さ松農場とよんでゐる。そんな關係から快く引受けられ同氏は、 て居られる。そこに大きな傘松があるので、土地の人はこれをか した處が、大乘氣で引受けてくれた。同氏は大きな農場を持つ 最初此の揮撃を誰に書いて貰はうかと思つたのである。する 、これは日報伯がよからうといふ事になつたので、同氏に依賴

現行讀本の揷畫であつた。「隨分骨が折れましたよ」といはれた 我々素人目には實は餘り感心した出來榮えとは思はれな か



のとで、 った。 僚の手前もある て話をされた同 得意であるの と、中間にたつ ムでせうといつ 本人が大 まあ

よく出來てゐるのだなと思つた。併し更によく檢討してゆくと も悪くはないし、その下の地藏尊は殊によく出來てゐる。 て採用する事にした。そこで更によく注意してみると、松の形

忘れたなと思つて、 つて頑强に反對された。どうも變だと思つて、 地蔵尊の前に供へた花立が一本しかない。これは可笑しい。書 其の返事はかうであつた。 いつも溫厚で從順な同氏が、「それはどうも困ります」とい もう一本書添へで貰ふやうと賴んだ。する その理由を聞く

ざるを得なくなつた。 二本揃へて書いたのでは……」 一本缺けて居ればこそ、淋しい趣が出て面白いのです。 私はギャフンと参つた。今更ながら同氏の苦心に敬意を表せ 「こんな山の中に、 露に晒されて立つてゐる地藏尊の花立は、 これを

またこんな事もあつた。

凝りやで、これを るから 分尊敬してゐるが、實際問題として、 は決して筆を執らない。我々はその藝術的良心に對しては、 つも閉口させられる。 それは讀本の一の卷に桃太郎の揷書を賴んだ時の これを書いた臣蠹伯は、藝術家肌の面白い人だが,又非常な 繪をかくにしても。何から何まで十分得心の行くまで 何でもよい加減な事の出來ない人である。それであ 繪の出來が遲いのには 事であつ +

ころが後から賴んだ他の畫家の繪は皆出揃つたに拘らず同氏の 今度は桃太郎の繪を一年も前から賴んでおいた。と

> あつた。 で、一日嚴談に及んだ。よく事情を聞いてみると、 挿畫は一枚も出來ない。度々催促はしたが、返事するばかりで 一向出來て來ない。 その内に發行の期日が愈々切迫して來たの かうなの



委せて、 の餘裕のあるに 郎の普通の服装 あつた。氏の説 獻と繪との蒐輯 に研究したので して之を歴史的 を始めた。さう 太郎に關する文 によると、 同氏は 芝居の國姓 先づ桃 桃太

代が區々であつて統一がない。桃太郎傳説が足利時代のものと その服装は何れる時代が前後してゐる。併し、 力髷、陣羽織・陣太刀等巨細に見ると、何 爺の服裝から出 若しこ れも時

たものであり、

しても、

たものかと、實は迷つて居るのだといふ事であつた。いかも知れないが、一向桃太郎らしい感じが起らない。どうしれを歴史的にみて適當な服装に直したとしたら、學問的にはよ

部省の者だと云つて雉子の標本を飾棚から出してもらひ、 る犬一匹も。わざり へてゐて見に行つて書いたのである。 しかなかつた。私は、この平凡な裏面に潛む異常な努力に人知 の無いのを幸に、翼を擴げてみて漸く目的を達し ぬ敬意を捧げる者である。 さうして出來上つた繪は、極めて平凡な普通一般の桃太郎 いといつて動物園に行き更に上野の科學博物館に行つた。 讀本の卷一にはいろう こんな苦心も印刷の都合で、満足な色が出ずにしまつた。 松屋樓上で開かれた日本犬展覽會を待構 への思出がある。 桃太郎ばかりではない。 雉子の翼の裏の色が分ら 7: のであつ 連れてゐ 文 T

同書の二十頁に、

「太郎が學校から歸りました。おとうさん只今おかあさん只

この時刻に兩親の揃つてゐる家庭はめつたにない。若しあると一年生が學校から歸つて來るのは大抵十時か十一時頃である。拶してゐる所である。此の揷畫には實に困つたのである。元來といふ課がある。學校から歸つた太郎が、兩親の前で歸宅の挨

い。そこで適當な挿畫に困りぬいて、出來上つたのが、現行敎科し編纂の旨趣から云へば片親でなく、是非兩親に挨拶がさせたすればブルジョアーの有閑家庭か、ルンペンの家庭である。併

である。

家庭

所に使つてゐの一部を事務

を目標に書いるやうな職業

たのである



へ葬られてしまふ。今度の讀本には大分寫眞版を使用してゐる成程と感心もするが、さうでない限り大部分の苦心は闇から闇數限りもない。畫家から直接聞いたりする機會のある場合には

てゐる。

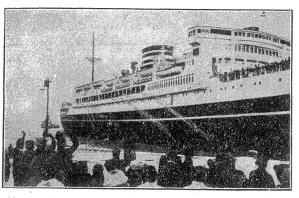
こんな話は

痛罵を飛ばしか」と冷酷な

屋の店頭です

「これは運送か、悪口屋は

麥稈帽子が飛出したり白いバラソルが寫つたりする。卷七の横を撮らうとして、數囘失敗して居る中に、何時か初夏ともなつてが、あの寫眞の撮影が又中々厄介なものなのである。春の景色



の と、 何處までも正確本位でゆ 理科的標本の如きものは 本文と相俟つて情趣を添 習を行つたのであつた。 位置をきめる爲に他の舟 出帆を寫さうとして三度 に正確さを生命とするも に就て一言したい。 濱港の寫眞は へる爲のものとがある。 の出帆を撮影して豫行演 も横濱に行つた。 私は最後に挿畫の見方 正確さよりは寧ろ 秩父丸の 適當な

にとり、それを忠實に寫生したものである。此の種の挿畫は正は、わざく、神奈川縣まで行つて、地中を掘返して實物を寫真かなければならぬ。卷七「油蟬の一生」の蟬の地中生活の挿書

で書くので を書くので でも、豊家 の挿書家は りする位で と教へたも

ずしも正確さのみを標準とするものではない。同じ動物を書い確を生命として作成したものである。乍併其の他のものは、必

では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、ないで、必ずしき理科的を書いてき、書家の見た舟、書家の見た田園を書いてき、書家の見た舟、書家の見た田園を書いてき、書家のである。昔が六本あつたり四本だつたりする位でなければいけないと教へたものである。先年挿と教へたものである。先年挿と教へたものである。先年挿と教へたものである。先年挿

3/ 2, n = 理衣)祭 7 ヶ清潔 -}-, 7

備及 教授 教授 理 運前 動後 ラ ニ コハシ営 ムチ 段 7L バン コ進 性护

闘シ特 生徒兒 身鍛錬 , , , n 寒音理 = ŀ = 強 小上極メ 古的 白暑中稽古等的ナラシメルノ細目ヲ定メ 韶 **歯意シテ之ヲ實施ノ身體情況竝衞生** 高義ナ 其り 7 スニ 干心

) 水年 不修練セテ コ可申 トク祭 事學校 ラド 爺 壆

指導者二 動 DI 1 ッ ト ス ル や 奏 校 作 F 1 7 1 修 兒 RA 里キヲ置ク 、概ネ第五 、概ネ第五 ルコル本年を

٦.

道場

2

Ь

指導者ノ キルケ 武道ノ = 教育 的 整備 闘勘ア於モノ

> 7. ヺ 指導者 Ah ルス 事 項右 機 關 左. ヺ 1 牆 加シ 売シ テ ス 特 ル -

2 = | 資質ノ向 遇 ラ F/s 韭 V 韭

n DI ルテ之ニ充 武道教師 = b ルテ其ノ / 兼任ヲ廢 N = b スラ

ヲ 5 會 糨 

か説があっ 證  $\exists$ 設ケ教授ニ支障ナカラシムルコトカラシムルコトカラシムルコトカラシムルコトの開スル事項の関係を表研鑽の カ用 ラノ シュ場 ルヲ

Ŧ. 3 2 義ニ則リ之 ハルトコト がルトコト 身所ヲ 3 ト義ハ 更衣 特 = = 一通の公室、 = b ラナテ試 採ル用神 | 具乾燥 行ク除合 光 = 八武負二 ゚ヺ b シ消 ラ關 良 退精節ル 好 室ク 7 並ル ラ キノニ事 = = コ本根項 洗 3/

> 2 圖 画ル 料 要 目 n 川規定ヲ 定二 × 之が 壓 統校 一武ヲ道

武道國 圖 全國 ル 體 コ的 並 b ŀ 抽 1 連 絡 的 == 大會 闗 ス 統 N 車

項調事管 ヲ項ナ 圖ニル ル謡 コシ達 ト郎 ヲ 設圖 團 n

4 n 訓 練

× リ運ナシ育、動ラ、運 運ナシ育ヲノ 動ラ、運忘精 ・シー動ル神 體育運 圖 / 1) 學校ニベラルボラット常 ル ~ 校二於ケル體操列がある。 連動二依ツテ身體 神的意義ノ發揚 がよれた大力 が、集関・大力 が、大力 が 、大力 が 、一力 一 

操科 = 關 ス

於 5 n 體操科 ~ 生徒兒童

> 三 野球ノ統制並ニ施 ・ 野球ノ統制並ニ施 ・ 野球ノ統制並ニ施 ・ 野球ノ統制並ニ施 ・ 野球ノ統制並ニ施 ・ 大力ラシメ、且他 ・ 大力ラシメ、且他 ・ 大力ラシメ、且他 ・ 大力ラシメ、且他 ・ 大力ラシメ、且他 ・ 大力の大力の ・ 大力の ・ カ期間。管下に登立という。
> カリンスを対している。
> 対している。
> はいる。
> はいるは、
> は ,導 コ體體指理者テ之ト相ル賞ムト操操導ヲハ大ガニ族ベ

行 = 關 . 7.

ヲ心行野完決來ノナニ ルヲノ義スキ效ル省テ

於か ルノ 體利育用 運 -動關 ノス 合ル 理件

野球審判 學校 一於 ケ , 統制 指導獎勵 ก 體 膏 = 關 = 關ス ス = n ニル六ルー件四ス件事件事件 件ル 部華

事

ヲハス官ヲ實實

Ŧî. 兀

項

中等學校體

膏

大會

=

開ス

項 十學校告 豐事 操項 **L**教授要 自 -翮 ス

ラ禁用

ル 項 お事者 リ項年ム 2 P.0 'n ŋ 大會 = 闗 ス n 寓:

ナ纲

四三 Ŧî. 實幸項 = 體 ノ際

-E 動事校 制放 團項ノ 動 豐

2

體育行 協

政識

機事

關項

\_

陽影

ス

△件

3

212

カレ 大會實 泳實施

轉府野リ員省県リ典分文令 任朋縣 制ニ泉 令限部僧 中和省個 改號二数 正令テ師 ハ分 件同曹限 ヲ僧洞黐 五倍宗體 月轉宗令 一衣令等

520

六 貢

拾 拾

錢 鏠

金

個

ケ 4 4

年 月 月 部

金 金參 金

送料共 送料共 送料共 送料共

玉参圓六拾錢

六

菱

● ● れ御代臨 の注金時

場では過ぎます。

は送本いたしませんがます前金切ります。

さます前金切

長セ議 制ニ宗憲中元憲 郎休任朋縣 ハ職セ來公 三岐リハ立 改八階 四小 正顯則 月學 ノ本評 三校 件法議 ラエ宗制 十長 日营 長沼野知 月宗中四憲改

料告麿

右と掲圓廣 文を載 \*告 部得頁四料

部省の御指定によったもの得ずに合きでは東部毎に拾参頁を紹明がは東部毎に拾参頁を紹明を対していません。

でのです

部毎に拾參頁を超ゆるこ 風拾八圓とす 五拾圓、二分ノ一頁參拾

昭昭

和和十十

车车

一五月二十

一日發 行

日日

(第五六〇

號

八

同余十横日公一濱 職學滿校

セ長ハ島等米五死失ニ懲山失限立日市退期長体縣至鎮日附**正**顯日令僧中曹 リ從四縣類澤等委官處役孝宮自青限橫磯ト野職視及任認則 本認及侶改调 七月體惟高石・トス八一 然年廢濱 為田滿學同 可評文法可同教正宗 行治験) 死學三 動目位 去校省福六、勳

載轉斷無禁 印刷

神道 宇間坂 地震 酱 東京市 以子六百七十番地 昭 磯 子鳳磯 子町 麴町 大 佩 谷 土字三番町十三番地

印刷所 行政學會印刷所東京市半込區增五新町五十二番地 庭 瓜 平

發行所 振 替 貯 金 東京市 國 地 大大一、大大二、大大三番 П 方行 座西 座 七十 東 政 京 日 + 學會 妣 番

zła"

爭項 體育運

動

闡

语쁨

絽

總

= 闗 事

件ル件

ニス四項

要攜畫計行刊報時部文 目 大 議演、講話、談話 (任発、) (社発、) (社発、) (教位、) (教位、) (本述、) (社元、) (七元、) (七元 ) (七 ボ暴委員長 內容 資料蒐集 行政及教育機關等 本時報登載事項 7 1 ノ爲省內各局課ニトキハ審査委員ノ 長ハ文書課長ヲ以テ之こか時報編纂ノ爲編纂委員 令令書 示 ス 法令並 公研表質 告閣勍 大要左ノ如 ノ聯絡提携 令ル例 諸般 モ規 1 1 = 告查彰答(本答省 代告委員ヲ 7 プ 示 令 語 便 施設事項ヲ テ ラシ ショ 置ル A クベ 周 ヺ

四發行 文部時報報告委員八各部局課  $\hat{=}$ 本時報ハ菊版、 應ジ Ħ ヲ發行期日 各府縣其 每號約六十四頁。 | 以テ之ニ充テ編纂委員ハ文書課||編纂委員長竝編纂委員若干名ヲ 同課ノ理事官、三文部時報報告 資料ヲ 定價金貳拾錢ヲ標準ト 囑託等ヲ 窓になった。 求 タルモノ 一角 関際(列場ト A ンレ  $\exists$ 員中 F ラスニ 報告書 トナ 3 ナリ 3 ルス論 令 律 每月三 ショ モハ 1--殿

### に廣で籍學選斯り

ふ深るあににに且大義専料項軍け行も叢 もめ。り家外於つ日と門たに事るす平書 のる今、庭なけ創本特知る及・最る易大 でた日机にらる業圖色識はぶ經高もに日

いべるもにるの

行

哲學と文學との 皇室と日本精神 世間道 防 精 陸 續 塲 間

伊藤政之助著 宇山熊太郎 · 匝 海軍少將 春 學 山 文學博士 松 善之助著 作 嚴 次著 樹著 翼著 定著

総クロース函入 を置各卷**金一圓** 總クロース函入新四六判高雅裝

番九一二京東座口替振 · 目丁一座銀區橋京市京東

## 社會式株書圖本日大

#### 員職係關纂編報時部文

同同同文監文文文同同同同同同同同可文文同同同同同同 官圖 囑 事

文部時報編纂季貨 文部時報編纂委員 文部時報編纂委員 文部寄稿編纂委員 文部寄務官 司 司 部 屬 部時

以 知

目 3

的

b w

ス

-3-テ

共

---

永保 平

田木村藤 泰秀日 智三 二郎郎登

坂內七川 重 堀吉堤小橘原岡西宮乙岡神鶴本田仲進有黑 井藤戸村 松 村川坂黑田野<sup>岡</sup>山村田 藤原田 幸 水福寛 不 伊 鐵真二泰忠次 義武計傳三銀森義一之次

六夫三治 郎 泰助澄雄賢篤郎裕雄雄介藏郎次次郎郎助郎